

グランドデザイン・大阪（まちづくり）について（骨子案 たたき台）

１．グランドデザイン策定のねらい

- ・ これからの世界経済の動向、人口減少、経済縮小がすすむ日本の現状の中で、定住人口・交流人口の増加をめざし、新たな成長のために、大阪の都市構造を大胆に転換していくことが必要である。
- ・ このためには、高度経済成長期に造られた大阪のまち、都市機能、行政界にとらわれたしばかり、制度疲労を起こしている大阪市、大阪府の壁を取り払い、都市経済活動、実態に合わせた大都市・大阪の方向性を示さなければならない。
- ・ 2050年（30～40年後）を見据え、大大阪のインフラ、拠点等の方向性（グランドデザイン（まちづくり））をここに示す。

２．理 念

成長する大都市・大阪 ～国際都市競争に勝てる大都市・大阪へ～

- ・ 世界経済の動向にあわせ、さらなる成長を達成し、日本を牽引する大都市をめざす。
- ・ 若者を中心に人々を惹き寄せ、人口減少に歯止めをかける。
- ・ 大阪の市場圏を拡大する大都市・大阪をめざした、広域インフラや拠点の形成。

便利な省エネ都市・大阪

- ・ 利用者の視点に立った利便性の高い交通システムへの転換
- ・ 地域においては、「歩いて暮らせるまちづくり」をめざした、都市機能の集約化・混合化
- ・ 新たなエネルギーの創造や省エネルギー化（LED等）の推進

都市魅力あふれる大都市・大阪

- ・ 大都市としての働き、学び、遊び、楽しむ機能の最大限の発揮 楽しい都市へ
- ・ 圧倒的な存在感のある名所、名物づくり（美術館など）
- ・ みどりの風を感じる歩行者・自転車空間

安全な大都市・大阪

- ・ 首都機能、日本の経済機能の代替え（企業のバックアップ拠点等）となる防災安全都市化
- ・ 大都市大阪居住者の安全のための防災拠点の形成

３．視 点

「ボトムアップ」、「パワーアップ」の両面から

供給側のまちづくりから利用者（くらし）側のまちづくりへ転換

- ・ これまで進めてきた供給側に立ったまちづくりから、利用者（くらし）の視点に立った、利便性の高い、効率的なまちづくりへと転換

都市ストックの組替え・活用、真に必要な都市施設の新設

- ・ これまで蓄積してきた既存ストックの組替え・活用や、公民の低・未利用地の活用、さらには、広域的視点に立った真に必要な都市施設の新設。

都市魅力創造のまちづくり

- ・ 都市基盤や都市機能の充実等においては、水と光、みどり（御堂筋、中之島など）の活用も含めた都市魅力の創造という視点を重視し、その効果を大阪だけでなく、関西の活性化に波及させる。

大胆な選択と集中

- ・ 限られた資源を効率的・効果的に活かしたまちづくりを実現するため、民間の活力を最大限導入し、大胆な投資の選択と集中を行い、国際競争力のある大都市の実現と、人と暮らしを都心部に取り戻す、新たな都市構造を実現。

4. 広域的位置づけと対象エリア

広域的位置づけ（広域インフラ）

<みどりの都市軸の創造>

北摂山系～大阪都心～関空へ

生駒山系～大阪都心～ベイエリアへ

<国土軸との連携>

中央リニア新幹線、新名神～関空へ

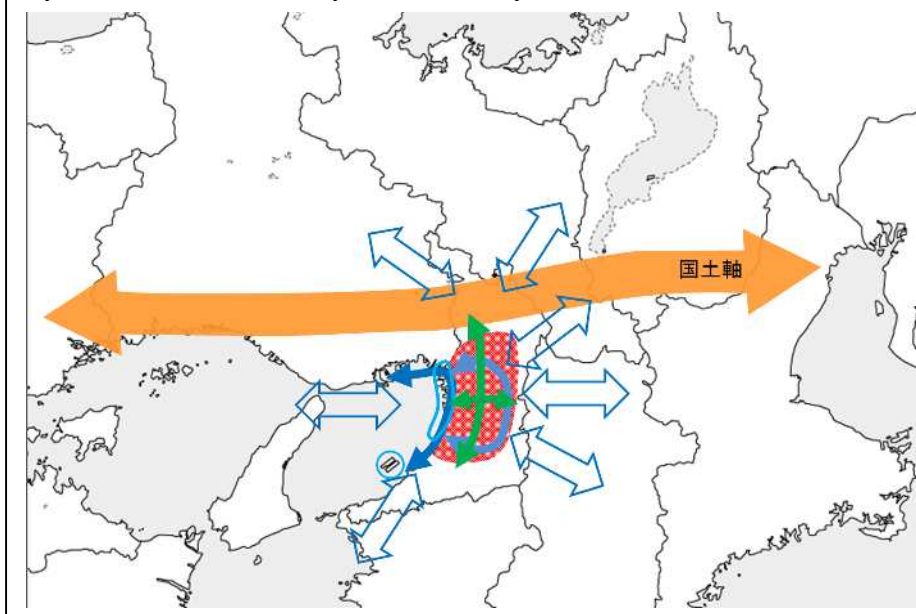
<東西軸の強化>

四国～大阪都心～東海へ

対象エリア

- ・ 大阪中央環状道路内側のエリアを中心に、その周辺部まで
- ・ これまでの行政区域に捉えられないことなく、大都市として機能しているエリアを設定

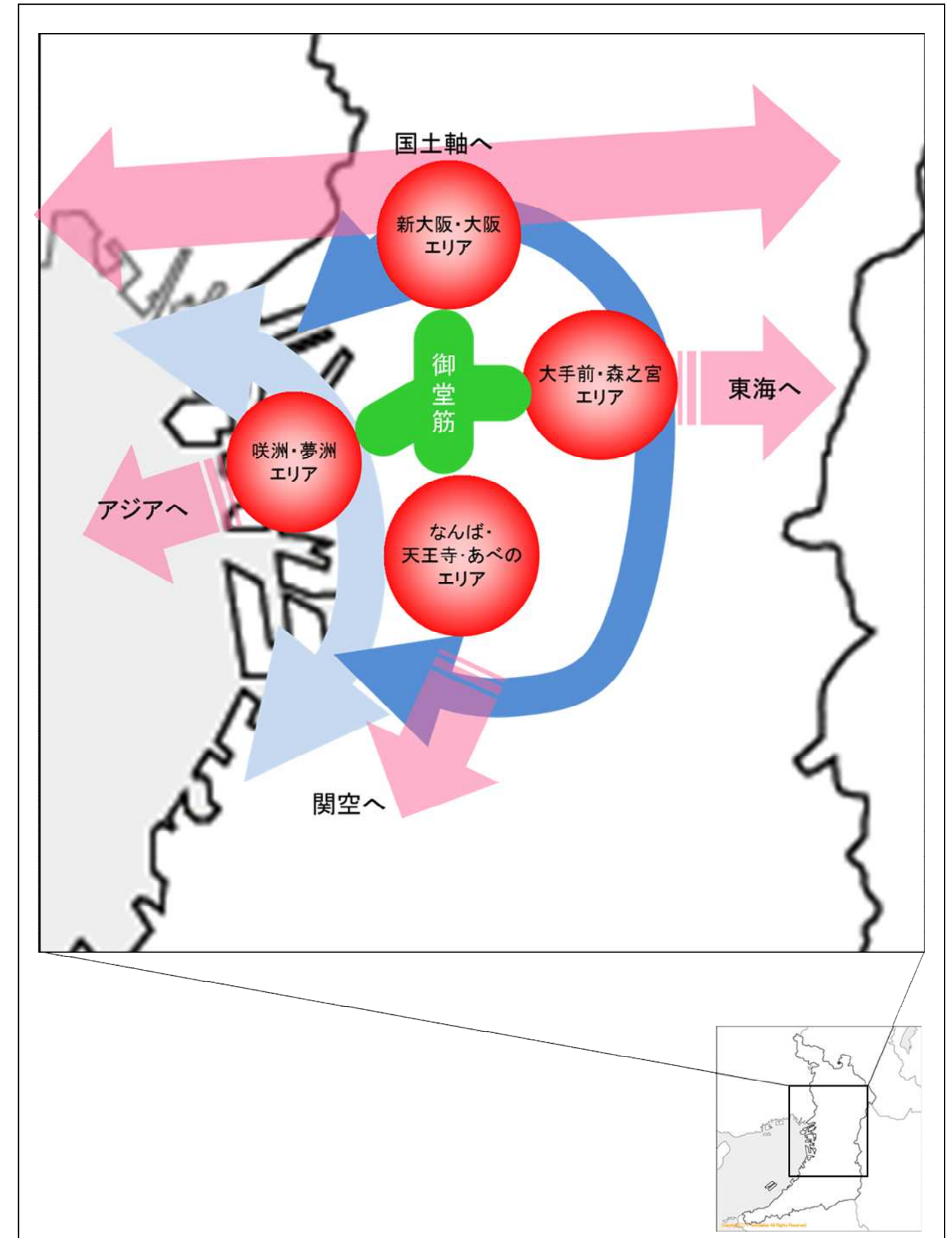
（グランドデザイン（まちづくり）の広域的位置づけと対象エリア）



5. エリア都市構造

<都市構造>

- みどり溢れる都市軸を中心とする都市構造に転換
- ・ 中心軸（みどりの御堂筋を大阪全体の背骨としていく。さらに2軸、3軸に強化）
- ・ それを支える軸として、湾岸軸、東西軸の連携・強化
- ・ それぞれの軸が、国土軸等のエネルギーを取り込む軸線として機能



<国土軸に連なり、都市軸を形成する都市拠点（例）>

○ 広域的役割を意識した連携の取れた都市拠点（例）の改造の方向性

- ・ 新大阪・大阪エリア（拠点）

- ・ 大手前・森之宮エリア（拠点）

- ・ 咲洲・夢洲エリア（拠点）

- ・ なんば・天王寺・あべのエリア（拠点）

- ・
- ・
- ・
- ・

* グランドデザイン（まちづくり）では、各拠点の広域的観点からの位置づけ、役割、方向性を示し、羅針盤的役割を果たす。

* 都市魅力戦略、産業戦略と連携

6 . グランドデザイン実現に向けた取り組み

- ・ 大阪府・市の行政主体の枠組みに捉われず、一体となって実現に取り組む、新しいシステムづくりにチャレンジする。

インフラ運営組織の一元化

高速道路や港湾等のインフラ・ストックを活用し、利用者の視点に立って料金体系やサービスの改善を図るため、「一体的な運営体制」(オーソリティー)の構築等を目指す。

(高速道路) ・阪神高速道路(株)、西日本高速道路(株)、大阪府道路公社などの高速道路網の一体運営により、料金体系を一元化、ミッシングリンクを解消(ハイウェイ・オーソリティー)。

(港 湾) ・大阪湾諸港の投資効率化、資産有効活用に向け管理運営の一元化。

(鉄 道) ・大阪市営地下鉄、鉄道各社等が協力し、運営の効率化、乗り換え利便性の向上等(シームレス化、運賃値下げ等)。

(空 港) ・関西国際空港、大阪国際空港

都市魅力実現のための都市ストック活用の体制づくり

(都市ストック活用体制)

- ・ 水都、水辺のにぎわいづくり、ライトアップなど、都市魅力のさらなる創造・発信を行うため、御堂筋や大川等、都市ストックを自在に活用した取り組み。
- ・ 都市ストック活用にかかる道路交通規制、河川使用制限等についての大阪府、大阪市の個別対応を改め、府・市一体的な規制・制限の解除協議ができる体制(都市魅力オーソリティー)。

大都市制度の変革、国制度の変革の提案

新たな大都市制度をめざして